

2021年10月1日

メタヴァースをめぐる風景

公益財団法人 国際通貨研究所
専務理事 藤末 浩昭

コロナ禍を契機としたリモートワークの普及が始まって、1年半が経った。リモートワークは、効率を犠牲にせず在宅で仕事ができる一方、対面でのコミュニケーションにおける、ある種のエントロピー（無秩序）がもたらす創造性には欠ける。リモートで集まって議論をしても、談論風発して切磋琢磨、以心伝心に肝胆相照というわけにはいかない。ネットを介したリモート・コミュニケーションがいきつく未来は、一体どのようなものになるのだろうか。この疑問へのひとつの示唆として、メタヴァースという概念が注目されているので、紹介してみたい。

メタヴァースとは、インターネットの更なる進化ステージを総称するもので、「メタ」という、より高次のものを意味する古代ギリシャ語の接頭辞と、ユニヴァースの「ヴァース」とが合体した言葉である。1992年出版の Snow Crash という SF 小説に初出した言葉だそうだが、今日では、人々がお互いにリアルタイムに交流しながら、クリエイティブな行為や商取引を自由に行える、ネット上のバーチャルな三次元世界を指すものとされる。

この概念自体はまだ漠然としてはいるが、究極的には、世界中の人々が自らのアバターを通して、現実世界で行われているモノやサービスの創造、消費、取引を、バーチャルでリアルタイムに、グローバルで持続的に行えるネットの世界を構築・運営することを目指すものといえる。ブロックチェーン、クラウドコンピューティング、3D グラフィックス、Augmented Reality/Virtual Reality、ステーブルコイン、DeFi（分散型金融）、NFT（非代替性トークン）などの発達により、メタヴァースの実現を可能とする構成要素はすでに存在しており、プラットフォーム企業や DeFi 企業の動きも活発である。

例えば今年6月には、イーサリアムのブロックチェーンを使う Decentraland というメタヴァースに、オークションハウスのサザビーがロンドンのボンドストリート本店そっくりのデジタル店舗を開設、NFT デジタル絵画などの展示販売を始めている。また、同じ6月には、NYのデジタル不動産業者 Republic Realm は Decentraland から店舗スペースを91万米ドル相当の暗号通貨で購入、これを Metajuku Shopping District として開発・運営するとしている。ここでは東京の原宿を模した2つのデジタル店舗を通じて、アバターが着用できる NFT デジタル衣料を販売するとのことだ。

また、最近の映画でもメタヴァースを題材にするものが増えている。ウォシャウスキー監督の「マトリックス」やスピルバーグ監督の「レディプレイヤー1」などがそうだ。さらに、今年7月に公開された細田守監督のアニメ映画「竜とそばかすの姫」は、メタヴァースを通じて成長していく高校生の心の葛藤を描いて秀逸である。主人公の女子高校生は、50億人のユーザーを擁する<U>というバーチャルなメタヴァースで、Belleという歌姫のアバターとなって沢山のフォロワーを獲得している。メタヴァースでのDragonという破壊的なアバターとの出会いを通じて、本当の自分の強さを発見していく軌跡を描いている。テクノロジーが我々の生き方をどう変容させるか、という視点を提供しているようにも思える。

技術の進歩とメタヴァースの発展は、現実の世界とバーチャルな世界との垣根を低くし、その境界を曖昧にしていくのであろう。逆に、そうした進化を難病の克服に活用する人もいる。イギリスのピーター・スコット-モーガン博士は、57歳の時に難病の筋萎縮性側索硬化症(ALS)により余命2年の宣告を受けた¹。しかし彼は、専門のロボット工学をフルに動員して、全身の筋肉が麻痺する前に、自らの生命維持装置を自動化するとともに、AIを使ってコンピューター上に表情や音声、情緒反応が自分とそっくりのアバターを合成し、視線で入力する文章をもとに他者とコミュニケーションできるシステムを作り上げたのである。彼は61歳となった今も、研究、著作などを精力的にこなしているという。

メタヴァースの進化については、まだまだ不透明な課題が多い。実生活に似たこのデジタル空間を、究極的には誰が運営主体となって、どの国の法律に準拠して、だれが監督していくのか。データやプライバシー、消費者の保護から、情報セキュリティ、決済リスク、マネーロンダリングに関する規制まで、各国の規制当局にとっては頭の痛い問題になっていくものと思われる。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8階

電話: 03-3510-0882

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>

¹ Peter 2.0, Peter Scott-Morgan, 2021, Penguin Random House UK